

12月15日(木)～2017年1月12日(木) 満月セレクト

－ 今回のセレクトー ご紹介 －

Music Selector : 丸山 京子



丸山 京子

大学卒業後、外資系企業に就職。ふと目にし、応募したラジオ局主催の英語DJコンテストで準優勝したのを機に、OLから音楽の仕事に転身。以来「音楽と英語」に関わる様々な仕事に携わってきた。ポール・マッカートニー、ローリング・ストーンズ、プライアン・ウィルソン、マドンナ、スティングなどミュージシャンの通訳は多数。高橋幸宏、pupa、原田知世の英詞の他、最近では映画「君の名は。」の海外公開版で RADWIMPS 楽曲の英詞訳を手がけている。

今回のセレクトCD

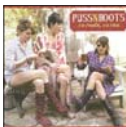
1.



k.d.lang / Hymns of the 49th Parallel (Nonesuch / WPCR11954)

広大な雪原、針葉樹林、薄氷張った湖…。カナダのミュージシャンの歌にはやはりそんな風景が似合います。ジョニー・ミッチェル、ニール・ヤング、ブルース・コバーンなど同胞カナディアンたちの曲ばかりを k.d.ラングがカバーしたこのアルバム、冬になると聴きたくなる1枚です。タイトルの「49th parallel = 北緯49度線」とはカナダとアメリカ合衆国の国境の事。先日、逝去したレナード・コーエンの「ハレルヤ」のカヴァーが心にしみみます。

2.



PussNBoots / No Fools, No Fun (Blue Note / UCCO1017)

ジャズ・フィール溢れる新作「デイ・ブレイクス」が好評なノラ・ジョーンズ。ジャズを歌うノラは文句なく素敵だけど、遊び心あるサイドプロジェクトも実はとっても魅力的。その一つがこのサーシャ・ダブソンとキャサリン・ポッパーと組んだカントリー・ユニット、プスンブーツ。顎をクイッとあげて、ブーツで街を闊歩するかのような佇まいがカッコいい。先達へのリスペクトも忘れずに。

3.



Simon & Garfunkel / Parsley, Sage, Rosemary and Thyme (Sony / SRC93856)

冬のニューヨークといって真っ先に思い出すのはロックフェラーセンターのツリー、セントラルパークのスケートリンク、リンカーンセンターのパレエ「くるみ割り人形」、タイムズスクエアでのカウントダウン。そして聞こえてくるのはサイモン&ガーファンクル。というのも、二人が出会い、S&Gの前身トム&ジェリーを結成したQueensの小学校P.S.164は私が通ったP.S.175のすぐ近く。そんな縁もあり、私にとってニューヨークといえば S&Gなんです。

4.



Billy Childs / Map To The Treasure:Reimagining Laura Nyro (Sony / SICP30657)

クラシック～ジャズと幅広い活動を続ける作曲家/ピアニストのビリー・チャイルズが10代の頃からファンだというローラ・ニーロの楽曲をアレンジ&カヴァー。「ストロンド・ソウル・ピクニック」「ニューヨーク・テンダーベリー」など“宝物”のような楽曲を“再考”するのは、ショーン・コーヴィン、リッキー・リー・ジョーンズ、スーザン・テデスキ、エスベランザ・スポールディングなど、当代きってのミュージシャンたち。彼らの世界に、ローラの世界に酔いしれてください。

5.



James Taylor / JT (Sony / SICP 8042)

癒しとか穏やかさとか、そんな言葉でついでに形容したくなるジェイムスの歌声の奥に潜む、ちょっとした狂気や孤独に気づいた時、どうしようもなく、この人を守ってあげたいという母性本能に駆られます。そんな永遠のジェイムス・テイラー、1977年のアルバム。